

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、フロアー、事務所に理念を掲示し理念を意識するように職員は努めている	事業所の理念は、所内各所に提示し、毎月の会議で唱和され、それぞれの職員が意識出来るようにしています。 管理者は日頃から理念に基づいた利用者への支援を職員へ伝えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学校PTAへの資源回収の協力のほか、地域の参加のイベント等に利用者様と参加しています。	コロナ感染防止のため、従来の地域交流は少なくなっていますが、小中学校PTAへの資源回収、地域のふれあい教室、イベント等へ参加しています。 日頃、事業所周辺の住民とは戸外散歩時等に挨拶を交わすなど、可能な限り地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない。散歩途中の挨拶など少しの会話をする程度です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様皆様のご様子や状況、取り組みを報告し助言や意見を頂いています。	コロナ感染防止のため運営推進会議は2ヶ月に1回書面で実施しています。会議には、利用者、地区会長、鳥取市、包括支援センター、事業所職員で事業所の様子や取り組みを報告しサービス向上に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議をはじめ日頃から意見等は頂いております。これまで、災害避難等で色々ご相談させて頂いております。	運営推進会議をはじめ必要に応じて市の担当者へ相談等連携を図っています。また、職員のスキルの向上に繋がる研修情報や地域の医療機関に関する情報を得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、内部研修を行なっています。	事業所内に年間研修計画より身体拘束防止に関する研修を行っています。また日頃から抑制や拘束のない介護を目指しています。禁止用語や尊厳軽視など、職員相互で不適切な介護とならないよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修を行い、日々の介護ケアに気を付けています。特に言葉使いには気を付けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、内部研修を行い後見人制度についても学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に見学して頂き、入居時に契約の説明内容変更、料金変更等がある場合はその都度説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、家族様宛に施設で生活の様子等を送っています。その中でホームに関する意見や要望に関する内容も記載しています。	日頃から利用者が職員に話しやすい姿勢を取ることが出来るよう話し合っています。また、家族には事業所たよりや通院、面会時等に意見を聴かれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の引き継ぎ等で職員から意見、困り事等を発言出来るようにしています。また、毎月の社内会議等でも意見を聞かれています。	月1回の所内会議や朝の申し送り時等に事業所の運営に関する意見を職員から聞くようにしています。また、職員ミーティングでは困り事等を話し合える場があり、日常的に発言できる雰囲気にも努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の意見や提案を会社の代表者へ上げます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修パンフレット等を申し送りし、閲覧し参加出来るよう勤務時間も考慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	去年までは事業グループ内の施設利用者、職員等の運動会クリスマス参加の交流場を設けました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が望んでおられる事、困っている事等安心されるまでお話を聴き寄り添っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様と家族様との短い時間での面会后、同席させて頂き不安要望等何うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援専門員が話を聞き、機能も生かし種々のサービス利用もご本人、家族の要望に添える様検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶の時間等、以前の暮らしを会話しながら聞き又色々な事をこちらに教えて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会后ご本人の様子を伝えます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様が面会に来られた時に、利用者様の友人の方に電話されその方と楽しそうに会談をされておられます。年賀状暑中お見舞い葉書を書いて頂いています。	現在、コロナ感染防止のため、面会は事前予約とし事務所にて面会を行っています。また、年賀状や暑中見舞い葉書を書いてこれまでのつながりが継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年間行事等、ホーム内で輪が持てるような楽しみ方法を職員が考えており、普段のレク時間でも楽しく会話できるレクにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前はお見舞い・面会等を行い、お亡くなり の場合はお葬式に参列してました。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の意見や思いや希望を出来るだけ聞く様にしてます。	居室担当者が、利用者からの意見を日頃から聴いたり、これまでの生活を家族から聴きながら、利用者の希望や意向の把握に努めています。 しかし、日常的な要望、意見はあまり出てきません。	これまで、家族から聴いた情報や生い立ちなど、再確認し利用者の思いや希望の表出を促すよう期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等関係者から聞きながら把握する様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、変わった事は見逃さないよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3か月に1回行いスタッフ会議で意見等を話し合い介護計画に反映してます。	介護計画は3か月に1回作成され、スタッフ会議で意見等を話し合い介護計画に反映します。家族からも計画の内容について事前に確認を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの個別記録に毎日に様子(健康・排便・水分・食事量・入浴)気が付いた所など記入し、それを見ながら見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診、外出支援、個別に対応してます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人権センターさんからのイベント参加。移動図書館に来て頂き本をお借りしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医との継続医療や施設の協力医とも連携をとっています。	利用前からのかかりつけ医に継続して受診しています。現在、コロナ感染防止のため、事業所に対応する場面が多くなっていますが、家族と連携しながら継続して受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院の看護職員が健康管理、医療相談支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時には連携シートで情報交換を行い、家族様とも連絡を取り合い退院の支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族様、主治医と話し合いの場を設けてます。	入所前に重度化した際の説明を行い、利用者と家族の意向を確認します。日頃から嘱託医と連携し、体調の変化を家族とも共有しながら適切な医療へと繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルや夜間の緊急網を作成している。今後は定期的に研修していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練や消防訓練を行っている。消防訓練は地域の方の参加や声掛けを行っているが日中なので未参加です。	年2回避難訓練消防訓練を行っています。消防訓練は地域の方に声をかけていますが、日中のため参加はありません。訓練内容については、運営推進会議で伝え助言等を得ています。	災害においては、地域との連携が不可欠です。現在、消防訓練は日中に行われ地域の方は参加していませんが、今後、具体的に避難時のシミュレーションを行い、地域の方の協力体制の構築に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護・尊厳心がけてます。	利用者へは「人生の先輩」として接していません。言動を否定する言葉や指示語を使用しないように会議等で確認し、排泄や入浴の介助は、さりげなく介助し、プライバシーへ配慮しています。	日頃からプライバシーの保護や尊厳に心がけていますが、今後、さらにプライバシーや個人情報、人権等の研修に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で思い、希望を尋ねています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強要しない様、また無理強いをしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を一緒に選んだり、家族様にお願ひし持ってきて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所に立って頂き簡単な下準備はして頂いています。食後の食器洗い進んでお手伝いして頂いています。	配膳等、職員と一緒に食事の準備等を行い、食事を楽しめるよう配慮しています。また、食事の内容も季節を感じられるようなメニューとなるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により食事管理。水分チェック、その方に合った食べやすい食事。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの声掛け、出来るだけご自分でして頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット使用の方には出来るだけ枚数を減らして頂きたく声掛けでのトイレ誘導を行う。	排泄表を活用して状態の把握に努め、トイレ誘導を行っています。日々の排泄支援は心身的良好維持に有効であることを職員で意識し大切に対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	簡単な運動や水分摂取など気を付けてますが、どうしても無理な方は医師の了解を得て下剤に頼ります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴間隔が開かない様に入浴して頂いてますが、職員の都合になってる事が多い。(曜日、時間帯は職員が決めている)	利用者の体調を考慮しながら、週2回入浴支援を行っています。利用者の希望に沿って、毎日入りたい方にも対応しています。入浴を希望されない方へも丁寧に説明し身体清潔に繋がるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクや近隣での散歩などしてます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後30程度時間を空け服用して頂きますがその場合、必ず職員同士確認し服薬して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節のお花、野菜を一緒に買いに行き植えたい花、野菜を選んで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物でスーパーに出かけたり、ガソリン給油で同行などです。家族様との外出はありません。	外出は利用者の心身状態や頻度を考慮して、なるべく戸外へ出かけるようにしています。近隣の店や公園で桜を見たり、紅葉狩りに出かけています。家族対応の受診時は、時間にゆとりを持ち家族と周辺に立ち寄れるように配慮しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をお持ちの方で、買いたい物欲しい時は同行し買い物を楽しんで頂きご自分で精算されます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本から掛けられません、かかって来られた場合は事務所内で会話されます。手紙葉書等届いたら返事は書いて頂き投函します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物など緑を置いてます、その季節の花も職員が持ってきて飾ってくれます。	共用空間は、出来るだけ観葉植物や季節の植物を飾り、落ち着きのある空間となるよう努めています。また、開放的な空間づくりにも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に数台長椅子があり、利用者様同士会話されておられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用されてた物、家族写真、ぬいぐるみ、手芸用品など身近に置いておられます。	居室は一人ひとりの身体能力や、車椅子の動線を考慮した家具の配置を心がけています。持ち込み品は制限なく、仏壇や家族写真など馴染みの物を置いてもらい、安心できる空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体に合った車椅子、段差が無い居室、廊下手すりなど使いやすい高さに設置しています。		